

舞踊作品における批評文の計量的分析 -ニジンスキー《春の祭典》(1913)を事例として-

佐藤 真知子

お茶の水女子大学大学院

1. 背景と目的

近年、情報技術の普及に伴い、人文科学系の分野でもコンピュータを用いた研究が進んでいる。それは舞踊研究においても同様である。舞踊学には動作学や教育学、心理学をはじめとする学際的な境界領域があるため、画像の解析やアンケート調査などで、コンピュータ技術を用いた分析を行うことが多い。一方、文字媒体による資料を分析するような研究においては、現在でも、質的方法をとる場合が主流である。この方法は、テキストデータの中から分析者が典型的または特徴的だと考える箇所を引用し、解釈するものであり、著者の複雑な心情や態度が表現されている文章の分析に有用である。一方、このような質的分析においては、引用されている素データがたまたま研究者の目にとまったものなのか、それとも大量の資料を精査した結果、まぎれもなく典型的なものとして選ばれたのかという疑問が、曖昧なまま残されているという批判もある (Lasswell 1949:42-3)。そのため、引用したテキストの特徴が、データ全体の傾向をどの程度代表するのかといったことを数値指標で表したり、あるいはデータの全体像を計量的方法で示した上で、その中のどの部分を引用・解釈したのかを説明することが望ましいと指摘されている (樋口 2015:5-6)。

以上の背景から、本報告では舞踊作品における批評文を取り上げ、計量的な分析方法を用いた解析法の一例を示す。それにより舞踊作品を対象とした研究において、テキストデータを計量的に分析する方法についての、利点および留意点を検討することを目的とする。

2. 計量的なテキストの分析方法について

計量的方法を用いた質的データの分析方法には、テキストマイニング (The Text Mining) という方法がある (石田 2008)。マイニングとは文字どおり採掘すること (Mining) であり、コンピュータの利用によりテキスト (Text) データの鉱山から、新しい知見を見出そうとする方法である。

近年の日本においては、このテキストマイニングの一手法である、計量テキスト分析の研究に注目が集まっている。計量テキスト分析とは、「計量的手法を用いてテキスト型データを整理または分析し、内容分析 (content analysis) を行う方法である」と定義され、「コンピュータの適切な利用が望ましい」とされる (樋口 2015:15)。この研究は、もともと質問紙調査における自由回答項目のコーディング

(いくつかのカテゴリーにデータを分類していくこと) に関するものとして始まった。その後、改良により新聞記事や雑誌記事、宗教経典、インタビューデータ等が分析対象となり、現在ではテキスト型データ一般を扱う方法となっている (樋口 2015:13)。さらに現在では、この計量テキスト分析を拡充したソフトウェアの開発が行われている。

3. ニジンスキー《春の祭典》(1913)を事例とした舞踊作品の批評文分析

3.1 ニジンスキー《春の祭典》とは

ヴァーツラフ・ニジンスキー [Vaslav Nijinsky 1889?-1950] は、バレエ史上最も偉大な芸術家の一人として知られる。ニジンスキーは卓越した技能を持つ男性舞踊手として、一世を風靡した一方、振付家としても再評価が進んでいる。特にニジンスキーの3作目の振付作品である《春の祭典》(初演 1913年、パリ) は、古代スラヴの春の儀式をテーマとしているが、バレエ史上最も激しい賛否両論の大議論が巻き起こったとして有名である。しかしながら、実際にどのような議論が繰り広げられたかという点については、いくつかの代表的な批評が引用されるにとどまり、総括的に検討された例は少ない。

3.2 目的と方法

そこで本報告では、《春の祭典》の初演時の批評文を、より客観性を担保できる計量的な方法を用いて分析を行う。それにより、今やほとんど伝説的に語られる《春の祭典》の初演時の反響について、その批評文を網羅的に分析し、検討を加えることを試みる。

分析方法は、テキスト型データを整理・分析することでデータの潜在的な特性を見いだそうとする、樋口が開発したフリーソフトウェア「KH Coder」を用いる。これにより、批評文中の言語データを単語や品詞といった形態素レベルや、主語と述語の係り受けなどの構文レベルで解析し、その結果を質的な解釈に活かして分析を行う。

3.3 分析対象

《春の祭典》の初演 (1913年5月29日) からおよそ1年間のうちに、フランスで発行された新聞・雑誌記事を分析対象とした。用いた資料は、フランス国会図書館のデジタル・アーカイブ、ならびに音楽研究者であるブラードの先行研究 (Bullard 1971) を参照した。その結果、45誌 80件の批評文を収集することができた。今回は分析ソフトにおける対応言語の開発状況から、限定的ではあるが、ブラ

ードが1970年代に英語訳を行なった批評文36誌、61件を分析対象とした。

3.4 分析者自身によるデータ分析のプロセスとその結果

1) 評価の概観

《春の祭典》の初演時に、どのような評価があったのかを探るために、批評文中に現れる形容詞、形容動詞を抽出した。そして出現回数が5回以上の語句について、内容が類似する語を集め、それらに名称を付け、サブカテゴリーとした。さらに類似するサブカテゴリーを集めて、名称を付け、カテゴリーとしてまとめた。その結果、図1に示す12のカテゴリーを作成した。また、これらのカテゴリーに振り分けた語の一覧を、付録として巻末に掲載した(表1)。これにより、この作品に対してどのような反響があったのかを概観することを試みた。

1. 良い・重要な	2. 新しい	3. 悪い・不愉快な	4. 国の
5. 強い・大きい	6. 奇怪な	7. 驚くべき	8. 原始的な
9. 純粋な	10. 芸術的な	11. 捉えがたい	12. 近代的な

図1. 批評文中の頻出形容詞・形容動詞をまとめ作成したカテゴリーの一覧

2) 評価とその対象を焦点化するためのコード化

図1に示したカテゴリーは、作品の評価に関わる語句の群として認められる。これらの中から、明らかに肯定的、あるいは否定的傾向が読み取れる語句の群として、「1. 良い・重要な」「2. 新しい」「3. 悪い・不愉快な」「6. 奇怪な」「10. 芸術的な」の5項目を選んだ(以下、これらを肯定的・否定的評価カテゴリーと称す)。さらに、これらの評価が何を対象として述べられているかを明らかにするために、「振付」「音楽」「美術」「作品全体」という4つの対象を設定した。そしてこの4対象と先述の肯定的・否定的評価カテゴリーが結びついていた場合に、その件数を計上するというコーディング・ルールを作成し実行した。なおKH Coderには、分析結果から元の文章にさかのぼることができる機能がある。その機能を利用し、分析者が批評文の意味内容の確認を行い、コーディング・ルールの改訂を含めた作業を複数回繰り返した。以上のようなプロセスを経て、批評文の発行日別に見た、肯定的・否定的評価カテゴリーの出現率を図2に示した。

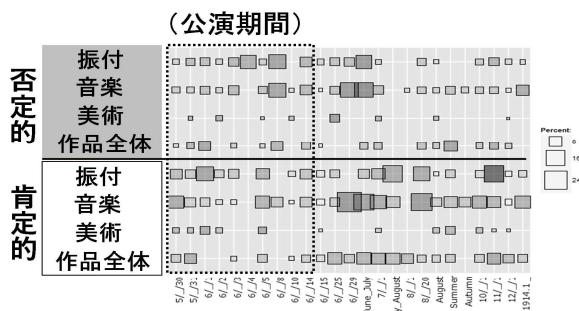


図2. 批評文の発行日別に見た肯定的・否定的評価カテゴリー出現率のバブルプロット
※正方形の大小は、評価に関わる語句の量を示す

3.5 考察

以上の分析結果をもとに、《春の祭典》の初演時の反響について考察を行う。図1を見ると、作品が良作であるか否かという議論だけでなく、驚きや捉え難さといった動揺があったことが推察される。さらに、近代性やナショナリズム的な話題も上がったことがわかる。さらに図2に示した肯定的・否定的評価カテゴリーの出現傾向を見ると、公演期間中は否定的評価、肯定的評価がともに散見され、確かに賛否両論であったと解釈できる。また否定的な評価は、年末にかけて出現率は減少傾向にあり、逆に肯定的な評価は公演期間後に増加していると読み取れる。それでは、具体的にはどのようなことが議論の対象となっていたのだろうか。

批評文の原文を参照すると、この議論的となっていたのは、「バレエ・アカデミック」と呼ばれるバレエ様式ではほとんど使われることのない「醜さ」や「歪み」の表現、「暴力的」で「破壊的」な印象、「原始的な」主題の解釈に関わりがあると考える。例えば最も強い口調で《春の祭典》を批判した一人である、音楽批評家のラロ[Pierre Lalo]は、次のように述べている。

人類の祖先の野蛮な運動を表すとした口実、独特でいいという口実もまた、美に依拠しダンスや芸術をつくるすべての身振りとしてすべての形式を、ぞんざいに扱った。《春の祭典》は品やエレガンス、高潔さ、雄弁さがなく、ただただ醜い。重く、単調で、一様に醜いものであった。(Lalo 1913)

しかし一方では、ここで批判されているバレエらしからぬ作品の特徴を「大胆さ」として賞賛する声も見られる。作品を早くから評価していたモース[Octave Maus]は、次のように述べ、この作品はフランスのバレエの伝統から逸脱するようなものであり、大胆な試みであると評した。

《春の祭典》は、私たちの上の世代を魅了し認められてきたバレエと呼ばれるところの、すべての作品から大胆にも外れている。リズムは動きの中に見出され、音楽はポーズとジェスチャーに置き換えられる。(略)色彩と音、そして動きは密接に結び付いている。(Maus 1913)

そして注目すべきは、11月に発行されたリヴィエール[Jacque Rivière]の評論である(Rivière 1913)。図2の11月の評価を見ても明らかなように、この作品を徹底的に擁護し、新しい時代の幕開けであると賞賛した。この批評文が、作品の将来的な舞踊史上の位置付けに影響を与えた可能性が指摘できる。この分析の詳細は、稿を改めて述べたいと考えるが、批評文の全体像ならびに内容の傾向を示す

ことで、これまでの先行研究を精緻化できる可能性がある
と考える。

4. 批評文分析に計量的方法を用いる際の利点 と留意点

4.1 利点

計量的分析方法を批評文に適用することの利点は、以下
の通りである。

① 信頼性・客観性の向上が期待される

今回取り上げた批評文のように、一つの作品を多方面か
ら様々な著者が述べている場合、質的方法ではどうしても、
分析者が観点を絞って読み進めていくこととなり、全体的
な傾向を客観性を保持しながら示すことは難しい。今回は、
振付、音楽、美術、作品全体というそれぞれの観点から、
批評内容の全体像を計量的方法で示した上で、質的に解釈
した結果を述べた。これにより、質的研究で必要とされる
研究者自身の感受性や社会的想像力が活かされつつ、客観
性を担保しながら論を進めることができると考える。

② 模索的なデータの検討が可能になる

データの全体像を計量的方法で示すことで、素データか
ら引用したり、解釈したりする部分が明らかになる場合が
ある。今回の分析では、例えば図2で示される評価の出現率
の分析結果を元に、特徴的な傾向が表れている批評文を精
読したり、図1で生成されたカテゴリーを元に、原文に立ち
戻って考察を進めたりというように、模索的に批評文を分
析することができた。また計量的な分析の結果が、分析者
があらかじめ有していた印象と異なっていた場合にも、新
たな洞察を得られる可能性がある。

4.2 留意点

今回の分析を通して見えてきた留意点を、以下に示す。

① テキストのデータ化に労力を要する

テキストをデータ化することは、かなりの作業量である。
今回は100年以上前のフランスで発行された新聞・雑誌記
事を分析対象としたため、その文章は分析者自身でデータ
化する必要があった。今回はブラードの英語訳版（こちら
もタイプライターで作成されている）を使用し、分析対象
も61件と限られていたが、批評文は論文並みのボリューム
を持つものも多く、文字起こしにかなりの時間を要した。
これは、歴史的な文字資料を計量的に分析しようとする研
究者にとっては、大きな障壁になるかもしれない。

② 少数派の意見に注意を払う必要がある

先に示した分析では、作品に対してどのような評価があ
ったのかを概観すべく、形容詞と形容動詞の出現回数が多
いものを抽出して検討を進めた。しかしここで拾うことの
できなかった、出現数の少ない語句の中に、重要な見解が
含まれている可能性がある。また批評家は複雑な心境を別
の言葉で言い換えたり、たとえ話をしたり、時には深入り
せずに濁したりする。つまり今回示した例では、計量的分

析のみに依拠して論を進めると、重要な視点を取りこぼす
可能性があると言える。そのため分析者は、計量的分析に
よって全体像を俯瞰しイメージを形成した上で、それに合
致しないような少数派意見を、質的分析によりすくい上げ
ていくことが必要であろう。

③ 批評中で述べられている「評価」をどう概観するか

先に示した分析では、評価傾向を概観するために、作成
した形容詞・形容動詞のカテゴリーの中から、明確に肯定
的・否定的評価に関係すると思われるものを抜粋し、分析
を進めた。しかし、例えば「奇怪さ」を一概に否定的な見
解として扱うかどうかについては疑問が残る。今回はその
ような問題意識から、「奇怪さ」について述べている箇所を
重点的に読み、どう批評家らが評価しているかを質的に分
析し、計量的分析に反映させた。その言説の発信者が、否
定・肯定の立場をはっきりさせていない場合や、ある語句
の解釈をめぐる議論をしている場合は、原文に立ち戻り、
質的に解釈していくことが必要であろう。

5. おわりに

本報告では、20世紀初頭に大きな反響を巻き起こしたバ
レエ作品の批評文について、計量的手法を用いて分析した
例を示した。そして批評文分析に、計量的方法を用いる際
の利点と留意点についてまとめた。

計量的な分析方法を用いて批評文を分析することの利点
としては、全体像を概観することによる信頼性・客観性の
向上が期待できる点と、模索的なデータの検討が可能にな
る点が挙げられる。

一方、留意点としては、印刷された文字資料を扱う場合
に、テキストのデータ化に労力を要すること、分析時に少
数派の意見を質的方法で補う必要があることが挙げられる。
そして今回の分析例においては、テキストデータ内の「評
価」をどのように概観すべきかという点に、課題が残され
た。今後は「評価」を概観する場合の、より信頼できる方
法について検討し、批評文分析に活かしていきたい。

文献

BULLARD, Truman Campbell. *The first performance of Igor*

Stravinsky's Le Sacre du Printemps.(vol.1-3), Eastman
School of Music of the University of Rochester, 1971.

COHEN, J., Dance Perspectives Foundation (ed), *International*
Encyclopedia of Dance. Oxford University Press, 1998.

デブラ・クレイン他『オックスフォード バレエ・ダンス事
典』初版第1刷, 平凡社, 2010.

樋口耕一『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析
の継承と発展を目指して』, ナカニシヤ出版, 2014.

石田基広『Rによるテキストマイニング入門』森北出版株
式会社, 2008.

- 稲葉光行、抱井直子「質的データ分析におけるグラウンデッドなテキストマイニング・アプローチの提案-がん告知の可否をめぐるフォーカスグループでの議論の分析から-」『政策科学』18(3), 2011, pp. 255-276.
- LALO, Pierre, « La Musique-Au Théâtre des Champs- Elysées », in *Le Temps*, 3 Juin 1913.
- LASSEWILL, Harnold. D, et al. *Language of Politics: Studies in Quantitative Semantics*, George W. Stewart, 1949.
- MAUS, Octave, « Le Sacre du Printemps », in *L'Art Moderne*, 1^{er} Juin 1913.
- 村上征勝『文化を計る-文化計量学序説』朝倉書店, 2002.
- RIVIÈRE, Jacques, « Le Sacre du Printemps », in *La Nouvelle revue française*, 1^{er} Novembre 1913. pp. 706-730.
- 鈴木晶『ニジンスキー神の道化』新書館, 1988.
- 吉田未央「バレエリュス『春の祭典』の受容-ジャック=エミール・ブランシュ『1913年の芸術的総括』分析-」『比較文学・文化論集』27、東京大学比較文学・文化研究会, 2010.

表1. 批評文中に現れる頻出形容詞・形容動詞のカテゴリーとその内容

カテゴリー	サブカテゴリー	語句
1 良い・重要な (241)	good (良い) (205)	great (48), good (35), perfect (21), better (21), interesting (15), greatest (11), brilliant (9), best (9), admirable (8), delightful (7), delectable (6), glorious (5), fine (5), acclaimed (5)
	important (重要な) (36)	important (15), worthy (8), precious (8), aignificant (5)
2 新しい (239)	new (新しい) (121)	new (111), unprecedente (5), fresh (5)
	incomparable (際立った) (71)	defferent (26), imcomparable (11), rare (9), particular (9), independent (6), special (5), individual (5)
	unique (独特な) (24)	unique (15), ingenious (9)
	vcreative (独創的な) (23)	original (16), creative (5), originai (2)
3 悪い・不愉快な (194)	rediculous (ばかな・滑稽な) (38)	ridiculous (11), stupid (10), scorn (6), absurd (6), frantic (5)
	provoke (嫌な・不快な) (37)	provoke(8), hideous (7), disturbing (7), tiresome (5), painfully (5) bitter (5)
	wrong (悪い) (30)	wrong (16), bad (9), mistake (5)
	deny (認めない) (26)	deny (9), poor (7), condemn (5), incontestable (5)
	excessive (度を越えた) (19)	discordant (8), excessive (5), sonorous (6)
	vain (独善) (17)	vain (11), arbitrary (6)
	childish (子どもじみた) (11)	childish (11)
	訳の分からない (10)	incoherent (5), contradictionary (5)
4 国の (147)	russian (ロシアの) (84)	russian (84)
	french (フランスの) (40)	french (31), parisian (9)
	foreign (外国の) (10)	foreign (10)
	diverse (多様性) (13)	diverse (7), cosmopolitan (6)
5 強い・大きい (133)	strong (強い) (64)	forth (13), strong (9), powerful (9), heavy (9), overwhelming (7), intense (6), noisy (6), heavily (5)
	laege (大きい) (49)	large (13), magnificent (12), vast (9), huge (9), enoemous (6)
	violent (暴力的な) (20)	violent (10), brutal (5), ferocious (5)
6 奇怪な (125)	strange (変な・奇怪な) (105)	strange (31), break (18) ugly (12), deform (9), destroy (7), unusual (7), bizarre (6), curious (5), strangely (5), grotesque (5)
	clumsy (不器用な) (20)	clumsy (9), contort (6), rough (5)
7 驚くべき (103)	marvelous (驚くべき) (77)	marvelous (19), extraordinary (15), amazing (8), remarkable (7), amaze (7), surprising (7), surprise (6), marvelously (6), surprised (2)
	daring (大胆な) (21)	daring (21)
	unforgettable (忘れられない) (5)	unforgettable (5)
8 原始的な (96)	primitive (原始的な) (96)	primitive (46), prehistoric (21), barbaric (15), ancient (7), wild (7)
9 純粋な (95)	pure (純粋な) (81)	simple (25), pure (15), natural (14), naturally (9), purely (8), crud (5), spontaneous (5)
	delicate (繊細な) (14)	decicate (14)
10 芸術的な (73)	artistic (芸術的な) (73)	beautiful (34), artistic (20), esthetic (7), elegant (6), charming (6)
11 捉えがたい (64)	difficult (難しい) (33)	difficult (12), hard (9), irresistible (6), laborious (6)
	subtle (捉えがたい) (15)	subtle (8), vague (7)
	mysterious (謎めいた) (8)	mysterious (8)
	complex (複雑な) (8)	complex (8)
12 近代的な (27)	modern (近代的な) (27)	modern (16), contemporary (11)

※カッコ内は件数を表す。